

# 沈黙に向き合う

沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

(33)

私が1979年の暮れ、与那国島で出会った陸軍中野学校出身のS・Kさんについて、その数奇な戦時中の体験と戦後帰国するや逮捕され極東国際軍事裁判のひとつ横浜軍事法廷で懲役15年の判決を受けてモンテンルパ刑務所(フィリピン)送りになったことなどを、連載の第26回(9月26日)、機でフィリピンへ送られる

与那国のS・K氏

1946年1月に日本へ引き揚げてきたS・Kさんは、43人の戦犯と兵に飛行機でフィリピンへ送られる



厚木飛行場を出発したと思われるS・Kさんらが降ろされた嘉手納飛行場。滑走路以外は建設段階の写真=1945年5月17日、嘉手納(米軍撮影、県公文書館所蔵)

ことになった。ところが飛行機は、離陸後3時間半ほどで着陸した。「米国の飛行機はこんなに早いのか」と驚いたS・Kさんは、外の様子を知りたいと思っ

GHQ連合国軍司令部は陸軍中野学校出身者について、これまで行ってきた行機はこんな早いのかと驚いたS・Kさんは、外の様子を知りたいと思っ

た。「フミ、シラミがわいてかゆいかゆい」とジェスチャーで米兵にアピールしたところ、全責素裸で機

S・Kさんは、紆余曲折を経て12人の仲間と共に朝

つた。与那国町役場に勤めた。GHQ連合国軍司令部は陸軍中野学校出身者について、これまで行ってきた行機はこんな早いのかと驚いたS・Kさんは、外の様子を知りたいと思っ

た。GHQ連合国軍司令部は陸軍中野学校出身者について、これまで行ってきた行機はこんな早いのかと驚いたS・Kさんは、外の様子を知りたいと思っ

## 中野学校出身者の戦後

# 生存1400人 多様な活動

## 朝鮮戦争前半島派遣も

せられた。外に出たとたん潮風を感じて、海が近いと思っ

朝鮮戦争前半島の朝鮮半島へ2カ年も派遣された。米軍の先発隊として釜山から北上して忠清南道まで活動し

た。S・Kさんは、ゴロゴロ覆ころびながら近づき、米兵の目を盗んで素早くそれを口に入れた。再び戻された機内で、そと口内の紙切れを取り出した。それはガリ版刷りの新聞紙で、それによつてここが沖繩だということがわかった。嘉手納飛行場に着陸していたのだ。

その後、S・Kさんは、沖繩で結婚して妻の故郷与那国島で生活するところになった。

「取材班」が入手した生存者1400人の「中野学校校友会名簿」には、全員

の職業(81年頃)が明記されている。会社経営者、宗

### 末次一郎氏

連載第26回で、81年5月6日付「琉球新報夕刊」えんぴつ横丁」に掲載された「末次一郎氏(青少年問題審議会会長の案内でルバング島の旧日本兵・小野田寛郎さん(59)が6日、夫とともに西銘順治知事を表敬訪問した」という記事を紹介した。戦時中、小野田氏が沖繩に一時滞在したので、再び沖繩の地を踏んだのだ。

当時、国際的「時の人」だった小野田寛郎さんを西銘知事に引き合わせた末次一郎氏という人は、いったいどのような人物なのだろうと読者は思ったはずだ。「校友会誌」によると、小野田さんと同期の中野学校出身だったのである。

その末次一郎氏の大物ぶりは、『世替わり裏面史』証言に見る沖繩復帰の記事(1983年、琉球新報社で知ることができた)。「沖繩の祖国復帰が実現しない限り、わが国の戦後

は終わらない」という佐藤総理の発言は、『県民の心情をくすぐる文句』として有名になった。それは、65年8月19日、戦後初めて

(次回は2月後半掲載)